



大槻ゆり子 議員

## 地域医療を守る 取り組み

# 地域包括ケアシステムの課題は？

答

医療・介護分野との一層の連携促進が必要

問

先進事例から行政主導による条例の作成や市民フォーラムの開催を提案する。現状を共有することで検診率の向上も望める。保険料の抑制効果で市民の負担軽減も可能になるがいかがか。

答 健康福祉部長

事例を参考に、当市に何が一番合うのかを含めて考えます。

### 用語解説

● 淡海あさがおネット：

滋賀県医師会が運営する情報通信技術を使った在宅療養支援システム。医療・介護スタッフの間で患者の容態や生活状況等の情報を共有できる。

### その他の質問

● がん教育

問 在宅医療の現状と課題はどうか。

答 健康福祉部長

医療従事者の研修、在宅医療や看取りに関する講演会の開催を通して、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、市民と一緒に頑張って地域医療の充実に取り組みます。

問

高齢化率の増加に伴い死亡者数も増加を見込んでいます。現状では介護保険施設のベッド数を増床する予定はなく、今後、病院以外で看取りが必要な方が増えると予測されます。ご自身が望まれる場所で最期を療養していただけよう体制を整えることが必要であり、市医師会をはじめとした関係機関との連携が急務と考えています。

平成28年から要支援の訪問介護と通所介護サービスを地域支援事業に移行を予定しています。また、介護予防体操を一層普及推進し、予防への意識向上や地域の自主的活動を支援しています。さらに、医師や歯科医師など多職種連携を深めるため、在宅医療・介護連携推進事業に取り組んでいます。

高齢者の方々への啓発を含めまだまだ十分ではないため、一層の分野間の連携促進が必要です。

また、地域医療を充実させていく対策として「淡海あさがおネット」の活用や

一人暮らしや高齢者夫婦だけの世帯が増え、老老介護、認知介護、遠距離介護問題を市民は不安に思っている。住民の健康問題だけでなく、生活状況にも寄り添って支援していく地域医療をどう守っていくのか。私は、行政・医療関係者・市民の連携を深める事が大事だと思う。

問 地域包括ケアシステムの進捗状況と課題はどうか。

答 健康福祉部長

医療、介護、予防、生活支援サービスを一体的に提供できるよう推進に努めています。



多くの医療・福祉関係者が出席する在宅療養シンポジウム